

鳴門教育大学の求める学生像（アドミッション・ポリシー）の 検証結果について

本学学部では、求める学生像（アドミッション・ポリシー）を次のように定めている。

鳴門教育大学は、21世紀に生きる人間として豊かな教養を培い、地球的視野に立って総合的に判断できる力量の形成に努めるとともに、教育者として子どもに対する愛情と教育に対する専門的知識を深め、教育実践力を身につけることによって、専門職としての教員を育成することを目指しています。

この目的に沿って本学では、次のような学生を求めます。

- 新時代を築くにふさわしい卓越した洞察力と豊かな個性・行動力を持った有能な学生
- 教員を目指すのに十分な基礎的学力を身につけ、高等学校等における教科・科目を幅広く学習し、入学後の修学に必要な知識を有する学生

また、上記に基づき、学部を構成する各専修においても、専修ごとの特性に応じた独自の受入方針を定めている。

アドミッション・ポリシーの検証については、本来入学者選抜方法、選抜状況等を基に行うべきところではあるが、入学定員が100名と少数なこと、また専修・コースごとに定員・選抜方法が細分化されているため、選抜状況等は客観的・数的判断根拠に乏しく検証のための資料としてはあまり有効でない。

本学では、このアドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜方法として、センター試験を課さない「推薦入試Ⅰ型」及びセンター試験を課す「一般入試（前期日程、後期日程）」ならびに「推薦入試Ⅱ型」を実施し、その個別学力検査は小論文、面接、実技を中心に行っており、この選抜試験に合格し入学した者が、学部4年間のカリキュラムを学修することにより教員としての力量を身につけ、複数の教員免許を取得した上で教員採用試験に臨んでいる。

その結果、平成26年3月卒業者の本学学部生の教員就職率は90.6%となり、5年連続で教員採用率全国第一位という成果を上げている。

このことから、本学の定めるアドミッション・ポリシーは適切であると判断できる。

今後もこの教員就職状況を維持するため、各専修・コースにおいてアドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜試験の実施方法等についてさらなる検証を行い、その結果、別紙のとおり平成28年度入学者選抜試験から入試方法等の一部変更することとした。

なお、文部科学省から平成27年1月21日付で示された「高大接続改革実行プラン」に基づき、今後、必要に応じてアドミッション・ポリシーを改正する旨、申し添える。

平成27年2月5日

鳴門教育大学学校教育学部入学試験委員会委員長

山 下 一 夫

平成 2 8 年度入学者選抜試験における入試方法等の変更について (予告)

平成 2 6 年 2 月
鳴門教育大学

平成 2 8 年度入学者選抜から、次のとおり変更します。

◆ 小学校教育専修国語科教育コース・中学校教育専修国語科教育コース

【後期日程：個別学力検査等の配点の変更】

現 行 入 試		平成 2 8 年度入試以降
面 接		面 接
<u>1 0 0 点</u>		<u>3 0 0 点</u>

◆ 小学校教育専修算数科教育コース・中学校教育専修数学科教育コース

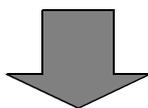
【前期日程・後期日程：募集人員の変更】

現 行 入 試		平成 2 8 年度入試以降	
前期日程	後期日程	前期日程	後期日程
<u>6 人</u>	<u>5 人</u>	<u>8 人</u>	<u>3 人</u>

◆ 小学校教育専修技術科教育コース・中学校教育専修技術科教育コース

【推薦入試 I 型：実技検査の内容変更】

現 行 入 試	
実技検査	<u>画用紙を用いた立体の制作によって、数理的な構想力及び作図や制作における技術力をみます。</u>



平成 2 8 年度入試以降	
実技検査 (発表・試問)	<u>実技検査は 1 人 1 2 分間程度で、出願時に提出した「自己推薦書」の【3 出願要件に関する取り組みの事例（高等学校在学中におけるものづくりや情報に関する成果等）を一つ挙げて、背景、目的、内容、方法等を具体的に記述してください。】の内容に関する口頭発表（7 分間）と口頭発表に対する口頭試問（5 分間）を行い、ものづくりや情報についての技術力をみます。</u> <u>口頭発表の際、実物投影機機能付きプロジェクタ（A 4 版までの普通紙のみに対応）を利用できますので、説明に利用する場合は、事前に資料や製作物の写真等を作成し持参してください。また、黒板も利用できます。</u>